

**令和5年度第2回岐阜県農業農村整備委員会
議 事 要 旨**

1 日時 令和6年3月5日(火) 13時30分～15時00分

2 場所 シンクタンク庁舎 1-1会議室

3 出席者 別紙のとおり

4 内容

- (1) 令和6年度ふるさと水と土指導員の活動助成について
- (2) 「ぎふ水土里のプロジェクト」の令和5年度実績及び令和6年度計画について
- (3) 中山間地域等直接支払第5期対策(R2～6)について

5 議事要旨

- (1) 令和6年度ふるさと水と土指導員の活動助成について
 - ・農村振興課から、ふるさと水と土指導員に対する令和6年度の活動助成案について説明が行われた。

 - ・委員からの主な意見は以下のとおり。
 - 松本委員長
ふるさと水と土指導員の助成にある消耗品の主な用途は何か。人件費は含めていないのか。
 - 佐藤主任技師
畑に植える苗や種、肥料や農薬が主である。人件費は含まれていない。
 - 兼山係長
ふるさと水と土指導員の活動助成の位置付けは、指導員の地域住民活動を促進するための研修であり、指導員の人件費は助成対象としていない。指導や助言が必要な場合、専門家に対する報償費は助成対象としている。
 - 松本委員長
ふるさと水と土指導員の数は30名ほどいるが、活動されているのは半数くらいと考えてよいのか。
 - 兼山係長
ふるさと水と土指導員は現在29名委嘱しており、令和5年度の実績

でそのうちの13名9活動を助成した。それ以外の方についても多くの方が活動は行っている。

○ 下田委員

ふるさと水と土指導員はどういった形で任命されるのか。

➤ 兼山係長

市町村からの推薦を受け、農業農村整備委員長が委嘱している。

○ 波能委員

白川町の岡本指導員の活動は補修の仕方を指導するものなのか。

➤ 兼山係長

コンクリート舗装を地元の方々と行っている。役所の手が回らない傷んでいる道路や未舗装の道路を自主施工で行っている。施工後は市に帰属させている。

○ 松本委員長

地域をまたいで活動をしてもらいたい、市町村から推薦してもらっていることから制約はあるのか。

➤ 兼山係長

様々なノウハウを持っている方々なので、他地域での指導活動も期待しているが、ほとんど行われておらず、今後の課題であると認識している。

○ 森副委員長

以前より、指導員の助成を申請されない方の理由は把握しているのか。また、指導員研修が大事と考えるが、指導員間の交流といった仕組みはあるのか？

➤ 兼山係長

全てはフォローをできていないが今年度活動助成を行った方のうち1今回申請されなかった方については、地元で活動のフィールドが見つからなかったことが理由である。助成を受けていない方の活動状況も含め、毎年度活動実績の報告を受けている。

全国研修への派遣等、指導員研修にも取り組んでいる。以前は、農林事務所単位での指導員の会議等、県独自の取り組みも行ってきたが、最近実施できていない。ご意見を踏まえ検討する。

○ 森副委員長

指導員が減ったことは社会的な情勢のものなのか。また、活動に対して専門家の助言を受けるよう、県から指導しているのか。

➤ 兼山係長

指導員の委嘱期間を概ね3年間とすることで、常に活動実績のある方

を委嘱するように制度を見直したことが主な要因である。専門家については、指導員から申請があった場合のみ県から依頼している。

➡ 委員会として承認。

(2) 「ぎふ水土里のプロジェクト」の令和5年度実績及び令和6年度計画について

・農村振興課から、ふるさと水と土指導員に対する令和6年度の活動助成案について説明が行われた。

・委員からの主な意見は以下のとおり。

○ 佐竹委員

今年度初めて揖斐川ウォーキングで棚田米で作ったおにぎりを提供するブースを設け、棚田のPRを行った。これからも盛り上げていきたい。若い力で元気創出ふるさと支援事業で揖斐でも大学生が活動しているので、今後連携を働きかけたいと思っている。

○ 近松委員

GIFU-DO農泊の情報発信について、SNSの活用は考えられないか。最近では、農泊施設と宿泊者がInstagramのDMでやり取りするなどSNSを活用する事例が増えている。

➤ 兼山係長

令和6年度は国内外に情報発信を取り組んでいきたいと考えており、ガイドブックやショート動画を含めた動画を作成するほか、観光情報誌やSNSを活用し拡散する計画をしている。

○ 國本委員

「知る」活動を通じて、「参加する」までになった人たちの分析はできているか。

➤ 兼山係長

県政モニターの制度を使って、農村の役割についての認知度を定期的に調査しており、高いレベルを維持している。しかし、知った方がどのように活動に参加していったかは把握できていない。昨年度、田舎応援隊の制度に参加していただいた方に参加する動機を調査した結果、「地域と交流をするのが楽しい」との回答が多くあり、地域と交流する仕組みが「参加する」へ繋げるためには必要なものであると認識している。

また、対象者を広げるという観点で、田舎応援隊の県外の登録者を増

やしたいと考えている。東京、名古屋、大阪といった移住フェアに出向いて紹介していきたい。

○ 佐竹委員

若い力で元気創出ふるさと支援事業について、大学生への支援は現状の額では足りないのではないのか。

➤ 兼山係長

ご指摘のように積極的に活動をされている団体の場合、交通費しか賄えない状況である。来年度、棚田の特産品開発に取り組む場合、補助限度額を増額する事業の拡充を行うが、引き続き要望を聞き取りながら、見直しを行いたい。

○ 森副委員長

岐阜の緑の豊かさとは何なのかということをも真剣に考えるべきだ。2、3年後のことをイメージしながら農村振興の立場からシンポジウムを行ってはどうか。

○ 松本委員長

市民農園に関して、最近の状況を教えてほしい。

➤ 兼山係長

岐阜市では農的な暮らしを希望する人が多いからか人気がある。「参加する」きっかけになるため、ご意見を踏まえ検討する。

➡ 委員会として承認。

(3) 中山間地域等直接支払第5期対策（R2～6）について

・委員からの主な意見は以下のとおり。

○ 松本委員長

資料の市町村に対するアンケート調査結果について、どの項目の変動が大きいか。

➤ 野田係長

「地域の各種団体と連携・協力し、地域の農用地を守る仕組みを構築する取り組みへの支援」が現在では10位であるが、10年後は5位に上がっている。自分たちだけで農地を守っていくのは辛く、協力してもらいたいというところ。また、「集落協定の広域化や統合に対する支援」に関しては直払いの書類作成を市町村が手伝っているということもあ

るので、現在では11位であるが、10年後は7位に上がったと考えている。

➤ 岩本課長

基盤強化法の改正がある。その中で、地域計画を作る必要があり、農地に対して誰が何を作付けをしていくかを地図に落とし込み、令和6年度中にやらないといけない。それとリンクさせながら中山間直払いの集落戦略を作っていく。

○ 佐竹委員

スマート農業実用化への支援に関して、県として重点を置かないのか。

➤ 野田係長

スマート農業の加算措置もあるが、地元がそこまで取り組めないというのが現状である。山間地のため取り組むのも難しく、ドローンによる防除、獣害柵の設置が主になる。

○ 田中委員

スマート農業は高額なので、普通の農家では手を出せない。高齢者に扱えないというのもある。集落協定自体の考え方と、農業で生計を立てることのギャップもある。

○ 林委員

営農組織からすると勘定が合わなかったり、田に水が入らないなど預かるのに困る土地もある。集落営農の気持ちがどうなのか知りたい。

➤ 野田係長

【後日確認】

飛騨市に確認した結果、耕作条件の良い農地に関しては、今後も引き続き守ってきたいと考えている。

○ 田中委員

営農組織は立ち上げた人が仕事出来る間は良いが、後継者がおらず、次の世代に繋がっていかない。なぜなら、金銭面で採算が合わなくなっていくから。

大規模な方向転換をしないと農地を守っていけない。

➤ 岩本課長

今での農地集積をやっていく一方で、多様な担い手をやっていかないと農地を維持できないと考えている。国の動きを注視しながら考えていきたい。

➡ 委員会として承認。

本日の審議については、岐阜県農業農村整備委員会として了承（松本委員）

令和5年度 第2回岐阜県農業農村整備委員会出席者名簿

□委員 10名
称略)

(50音順・敬

氏名	主な職名	備考
浅谷 満実子	NPO法人恵那市坂折棚田保存会 事務局	
國本 真志登	岐阜新聞社 取締役 統合編集局長	
佐竹 輝美	株式会社デリカサイト 執行役員 情報本部長	
下田 葉子	NPO法人ななしんぼ 理事	
田中 一男	有限会社エイドスタッフ 代表取締役	
近松 香代	生活協同組合コープぎふ 理事	
波能 寿子	各務用水土地改良区 事務局長	
林 達也	株式会社DIB 代表取締役	
松本 康夫	岐阜大学 名誉教授	委員長
森 誠一	岐阜協立大学 地域創生研究所 教授	副委員長

□関係者等 8名

氏名	所属・役職	備考
(農政部)		
田口 博史	農政部次長	
(農村振興課)		
岩本 英司	課長	
兼山 雅史	農村企画係 技術課長補佐兼係長	
荒川 恵	農村企画係 技術主査	
佐藤 功一	農村企画係 主任技師	
野田 幸宏	農村支援係 係長	
北牧 希久子	農村支援係 技術主査	
岩井 七瀬	農村支援係 技師	